8. 昭和40年以降における製材産地の変貌形態

——福岡県を素材にして——

九州大学農学部　小　嶋　睦　雄
堺　正　紘

1．「港湾製材」対「内陸製材」に象徴される製材産地の形態分化は，基本的には原料供給基盤の変貌によるものである。

個別製材産地の位置まで降りて実態分析をすると，必ずしもこのような「二分極化」という考え方では把えきれないのではなかろうか。そこで，福岡県の製材産地を対象にしてその検証をしてみよう。

全県的には7割の外材シェアである当県は，北九州・大川・福岡の3市への集中度が80%（45年）もあり，必ずしも平均的に拡散化してはいない。

急激な原料基盤の変貌をみている福岡県下の製材産地のなかから，外材入荷率•工場数•原木消費量•原木入荷量・製材品出荷量および地域の流通関係等を考慮して，表1に掲げた8製材産地を抽出した。これを分析対象として，形態分化・変貌形態の現状を報告するものである。分析手法の理論化は後日の課題としている。

2．①港湾型外材製材産地。この産地の特徴は（i）小数の大規模・外材専門工場が中核となる産地構造であり，（ii）輸入港湾および大需要地を立地条件としていること等に集約される。北九州地区，大川地区および福岡地区等がそれである。この3地区は早い時期から外材化が進み，41年に前2者は80%を越え，後者は70%台に達し，45年ではいずれも90%台である。これらの3地区は同範疇に属するとはいえ，その変貌形態には差異がみられる。1つは北九州，大川の両地区にみられる拡大発展ないし安定成長型であり，他は福岡地区の停迷型である。前者の発展型は特定の需要主体（北九州地区の北九州重化学工業地帯，大川地区の大川木工・家具工業地帯）に強く規定され，特に北九州地区の場合は小倉港木材団地が産地構造の中核を形成している。後者一福岡地区は零細・小口の住宅建築需要の集積需要が主体となっていることと，産地構造のケルンが相対的に脆弱なために，結果として停迷を余儀なくされている。殊に，福岡市木材団地の頓挫はケルン形成主体の喪失となり，発展のバネを欠いたのである。

②内陸型外材製材産地。福岡都市圏。福岡市の衛星都市化が進行するなかで，住宅建築需要をはじめとする木材需要が拡大し，それに併進的に在来の地域林業構造が脆弱化した。博多港を原木供給基地化し，外材導入が補完的位置から支配的位置へと上昇するというドラステックな変貌形態をとっている。即ち，41年では国産材依存率が70%であったが，45年では逆に外材依存率が63%になっている。形態的には外材型工場の主導という外材型産地形態であるが，構造的に小型工場の集積という国産材型の産地構造であり，いわば内陸型外材製材産地として形態分化することによって拡大発展している。

③内陸型国産材製材産地一第1形態。零細小型の国産材専門工場ないし国産材型工場の集積構造として規定され，それは地域林業構造との放射的連結性を構造的な特徴とする。浮羽地区が代表的事例である。即ち地場や日田市の市売市場および森組の共販（千足共販所）と製材資本の直接的依存関係を活性化することにより，つまり形態的には国産材の入荷増（23%増）をテコに安定成長している形態である。浮羽地区は原木の集散地市場に立地しているのである。

④内陸型国産材製材産地一第2形態。前者と静態的には類似の産地構造であるが，地域林業構造との単一的直線的連結性を構造的特徴とする，いわば山元製材産地型である。その代表的事例が八女地区である。当地区は産地形成主体が地域原木の集荷分荷能力を欠き地域林業との連結性を稀薄にしているため，産地浮揚の活性源が形成されず，全層的に没落している。

3．製材産地は，内的には外材導入が特定産地へ集積するなかで，地方への拡散化が浸透し，他方，国産材の供給能力と総括能力の低下と，外部需要要因に触発されて形態分化を生じた。その内実＝変貌形態は単なる，港湾型外材製材＝発展，内陸型国産材製材＝没落という類型に収斂されるとはいえない。

製材産地は原料基盤の変貌と需要構造の性格を縦軸に，個別産地構造の特異性と流通資本の参入を横軸に　上述の4類型に形態分化している。

表1　産地別製材工業の動向　(41年/45年対比)

産地名	年(昭和)	工場数	出力数(kw)	原木消費量(1000m³)	原木入荷量(1000m³)	外材入荷比率(%)	外材依存率(%)	国産材依存率(%)	製材品出荷量(1000m³)	1工場あたり 出力数(kw)	1工場あたり 消費量(1000m³)	1工場あたり 出荷量(1000m³)
北九州	41	60	4,395	253.4	260.5	33.8	81.4	18.6	191.0	73.3	4.2	3.2
	45	52	4,735	353.8	357.6	33.3	97.4	2.6	257.8	91.1	6.8	5.0
	45/41	△13%	7.7%	39.6%	37.3%	* 64.2%			35.0%	24.3%	61.9%	56.3%
大川	41	31	2,177	246.3	252.8	35.8	88.9	11.1	197.9	70.2	7.9	6.4
	45	32	2,760	317.4	315.0	28.7	95.3	4.7	250.4	86.3	9.9	7.8
	45/41	3	26.8	28.9	24.6	33.6			26.5	22.9	25.3	21.9
福岡	41	37	1,891	159.3	165.2	19.3	73.1	26.9	121.8	51.1	4.3	3.3
	45	29	2,163	169.7	171.4	14.8	90.2	9.8	121.1	74.6	5.9	4.2
	45/41	△ 22	14.4	6.5	3.8	28.1			△ 0.5	46.0	37.2	27.3
福岡都市圏	41	79	1,790	82.5	91.5	3.0	29.8	70.2	66.2	22.7	1.0	0.8
	45	84	3,036	123.1	127.2	7.6	62.7	37.3	96.3	36.1	1.5	1.1
	45/41	6	69.6	49.2	39.0	292.3			45.5	59.0	50.0	37.5
山門	41	13	353	11.4	12.0	0.2	11.8	88.2	9.4	27.2	0.9	0.7
	45	14	503	21.7	22.1	1.3	60.3	39.7	15.6	35.9	1.6	1.1
	45/41	8	42.5	90.0	84.2	950.0			66.0	32.0	77.8	57.1
浮羽	41	60	1,281	95.7	97.1	0.7	4.4	95.6	89.7	21.4	1.6	1.5
	45	75	2,016	139.2	139.9	2.5	18.3	81.7	114.3	26.9	1.9	1.5
	45/41	25	57.4	45.5	44.1	595.3			27.4	25.7	18.8	—
築上	41	38	834	45.4	47.6	1.1	14.8	85.2	38.6	21.9	1.2	1.0
	45	33	990	54.7	54.7	1.6	30.9	69.1	46.3	30.0	1.7	1.4
	45/41	△ 13	18.7	20.5	14.9	240.3			19.9	37.0	41.7	40.0
八女	41	31	558	49.0	50.9	0.0	0.2	99.8	39.2	18.0	1.6	1.3
	45	34	634	27.1	27.6	0.5	20.8	79.2	21.4	18.6	0.8	0.6
	45/41	10	13.6	△ 44.7	△ 45.8	7004.9			△ 45.4	3.3	△50.0	△53.8
福岡県	41	585	18,485	1,241	1,283	628	48.9	51.1	1,003	31.6	2.1	1.7
	45	582	23,687	1,509	1,518	1,045	69.3	30.7	1,174	40.7	2.6	2.0
	45/41	△0.5	28.1	21.6	18.3	66.4			17.0	28.8	23.8	17.6

(注) * 外材入荷量（実数）の増減率である。以下同じである。
** ① 福岡都市圏……筑紫・糸島・早良・粕屋・宗像の5郡　② 築上地区……豊前市・築上郡
③ 八女地区……八女郡　④ その他は，それぞれの市域および郡域を単位としている。
*** （出所）福岡統計調査事務所調べ『製材統計調査基礎調査結果表』の41年，45年次の市・郡別集計表より編成・作成したものである。